

# 須津 千人塚古墳で 国内初の大発見！

須津地区にある富士市指定史跡の千人塚古墳で、約一四〇〇年前につくられた帯(ベルト)の金具が三点発見されました。

この帯金具は薄い銅の板に金メッキをしており、表面には、三神山(仙人が住むといわれる山)、鳳凰、鬼神など



↑ クリーニングされて、金色の輝きを取り戻した帯金具

どの文様が細かく彫り込まれています(下の図を見てね)。

細かい文様を彫る技術や、デザイン、全体の形などから、この帯金具は朝鮮半島の古代の国・百済の技術者が作った物である可能性が高い、と考えられています。日本国内では初めての大発見です！

約一四〇〇年前につくられた帯金具  
ルーツは朝鮮半島の国・百済

まいぶん こどもニュース

「まいぶん」は「埋蔵文化財」をみじかくした言葉です。富士市の「まいぶん」の最新情報をみなさんにお届けします！

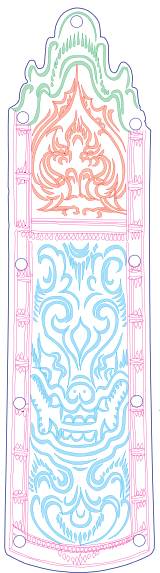
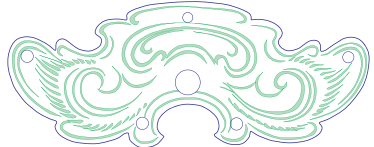
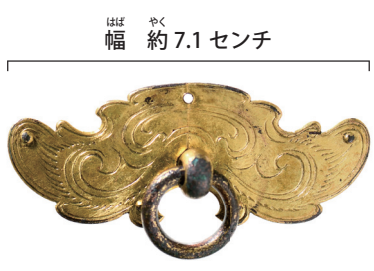


↑ 帯金具がつけられたころ(飛鳥時代)の日本・朝鮮半島・中国の国名・地名

この帯金具が作られた頃の日本(倭)の政治の中心地・飛鳥(今の奈良県)では、法隆寺を建立した聖徳太子(厩戸王)の周りで多くの百済出身の技術者たちが活躍していました。飛鳥寺や法隆寺の仏像を造った鞍作鳥もその一人です。

また、最近の研究では、富士市が位置する静岡県東部地域には、聖徳太子の一族(上宮王家)に従う人々が住んでいたと考えられています。千人塚古墳に葬られた人は、聖徳太子の一族とのつながりによってこの帯金具を手に入れ、大切な宝物として古墳に納めたのかもしれない。

あの！有名聖徳太子とつながりが？！



発見した時のきもちは？

これはとんでもないものかもしれない... と思いました



※ 厚さはどれも約1ミリ